

大学部活動におけるマネージャーの理想行動について

生涯スポーツゼミナール 1313008 石堂悠太

1. 研究動機・研究目的

大学における運動部活動は、中学、高校までの部活動に比べると、大会や試合はもちろん、他校との練習などを見ても、その活動範囲や行動範囲が格段に広いことは明らかである。それゆえ、そうした活動に関わる雑務も多岐に、また広範囲にわたっている。いくつか具体例を挙げてみると、練習場の確保、体育会代表者会議への出席、部費の徴収管理、大会への参加申し込み、合宿や試合等の遠征に関わる手配、部内における各係の統括、OB会とのやりとり、部員のスケジュール把握、関係者への礼状送付、顧問や監督のサポート、協会へのメンバー登録など枚挙に暇がないが、どれも選手が練習の合間に片手間で処理できるような仕事内容及び仕事量ではないと言うのが現状である。

このように幅広い大学運動部活動を滞りなく進め、さらに大会等で良い成績（結果）を残していくためには、これらの雑務をチーム所属のマネージャーが一手に引き受け、選手が心身両面において練習に集中できる環境を継続して維持することが必要不可欠である。そういった観点において、大学部活動のマネージャーは、チームの中において重要な役割を担っている縁の下の力持ち的存在であると言えるだろう。

私自身、現在、男子ハンドボール部のマネージャーとしての自負を持ってチームに所属し、日々チームのために様々な仕事をこなしている。しかし、マネージャーが選手や部員に対して良かれと思ってとっている行動や発言（コンピテンシー）と、選手や部員がマネージャーに対して望んでいる行動や発言が、必ずしも一致しているとは限らない。

そこで、選手をはじめとする部員は、マネージャーに対してどのような役割を期待しているのか、また、マネージャーはどのような点に心掛けて職務にあたっているのかアンケート調査を行い、双方が互いの立場や考えを理解し共通理解を深めるため、両者の意識の違いを明らかにしたいと思い、本研究に至った。

本研究の目的は、大学部活動におけるマネージャーの態度、行動、信念（コンピテンシー）において、選手・マネージャー間でどのような意識や考えに、ズレや違いが生じているのか、その原因が何かを明らかにし、今後の大学部活動における選手・マネージャーの関係性の向上に貢献することである。

2. 研究方法

【調査対象】 順天堂大学スポーツ健康科学部の大学運動部に所属する選手 112 名とマネージャー11名。

【調査時期】 2016年9月から10月までの一ヶ月間で調査を行った。

【調査内容】 選手には自らのチームのマネージャーに対しての評価アンケートをマネージャーには自らの仕事や行動に対する自己評価アンケートを実施した。

3. 主な結果と考察

(1) 選手とマネージャーによる意識の差

差の大きかった5項目は「MGは仕事をミスなくこなしている」「選手に学校やチームのルールを守らせている」「選手から信頼されていると感じる(MGを信頼している)」「選手にチームとしての目標をもたせている」「選手に対し状況により厳しくしかっている」であった。差の小さかった6項目は「選手の状態を把握している」「選手をよく観察している」「選手とよく会話している」「時と場合によって選手とのかかわり方を変えている」「物事に臨機応変に対応している」「選手へ言葉がけのタイミングに気を付けている」であった。全体的な傾向としては選手のマネージャーに対する評価の方がマネージャー自身の評価を上回る結果となった。しかし、「選手の状態を把握している」「時と場合によって選手とのかかわり方を変えている」「選手へ言葉がけのタイミングに気を付けている」の3項目についてはマネージャー自身の評価が選手の評価の得点を上回っているためこの3項目については特にマネージャーが選手やチームに対して力を入れている重要な事項であることが考えられる。

(2) 部活による比較

全体的に見ると平均して評価が高かったのは女子バレーボール部と男子ハンドボール部であった。女子バレーボール部は部員とマネージャーが同性であるうえにマネージャーが選手からの転身であるため選手の要望に応えやすい環境にあると考えられる。男子ハンドボール部はマネージャーが男女とも存在するためどんなことでもコミュニケーションがとれ、部内での役割が明確であり様々なことに対応できる環境が整っていると考えられる。

4. 結論

- 1)マネージャー自身は自らの仕事にもっと改善の余地があると考えている。
- 2)選手のモラル面の向上・維持は少なからずマネージャーの影響がある。
- 3)順天堂大学運動部の選手はマネージャーに対して非常に信頼感が強い。
- 4)順天堂大学運動部のマネージャーは選手に対して積極的に会話をしておりコミュニケーションを図っている。
- 5)マネージャーはコミュニケーションをとるタイミングや接し方に気を遣っている。
- 6)順天堂大学運動部のマネージャーは不測の事態にも臨機応変に対応できている。
- 7)モラル面に関しては大学生としての自覚が求められる。
- 8)順天堂大学運動部のマネージャーは指導者との連携が取れている。
- 9)役職を問わず、チームのルールを指導する場合は同性の方が効果的である。
- 10)マネージャーへの評価が高いチームの成績が良いとは限らない
- 11)マネージャーはチームに複数いるほうがチームにとってもマネージャーにとっても負担が軽減される。
- 12)選手の人数に対してマネージャーの数が多すぎても良い影響を与えられない。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を遂行するにあたりアンケート調査を快く引き受けてくださった順天堂大学男子ハンドボール部、女子ハンドボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、ラグビー部の皆さまに心からお礼申し上げます。また、本論文を執筆するにあたってご指導いただいた黒須先生、生涯スポーツゼミナールの先輩、同期には本当に感謝しています。ありがとうございました。